

あいぎやう(愛敬)づく	(愛敬が備わる)顔立ち、人柄、態度、声などに愛らしさがある、魅力的だ
あいだる	なよなよと甘えた様子
あいなし	(好意が持てず、嫌な感じがする気持ちを表す)感心できない、気に入くない、興ざめだ 無益だ、しない方が良く、不本意、理由が無い、自分の身に関係が無い
あいなたのみ(あいな頼み)	そらだのみ、あてにならないことを頼りにすること
あえか	か弱いさま、弱々しい、華奢な
あかつき(暁)	夜明け前の暗いうち
あからさま	にわか、急、ちょっと、本格的でないこと、かりそめ
あかる(離る、分かる、別る)	退出する、退散する、散り散りになる
あかれ(別れ)	別々になること、別れ、分散したそれぞれの分
あきらむ(明らむ)	はっきり見る、事情・理由を見極める、はっきり知らせる、心を晴らす
あきらむ(明らむ)	物事を良く見る、はっきり見る、事情・道理・理由・原因などを見きわめ明らかにする、楽しくする
あく(飽く)	じゅうぶん満足する、満ち足りた思いになる、心ゆく
あく(厭く)	程度が過ぎていやになる、うんざりする、あきる
あくがる(憧る)	場所を離れる、心が体と離れる、浮かれ出る
あけぼの(曙)	暁の後、夜が白んでくる時刻
あげまき(総角)	髪を中央から左右に分け耳の上で結び上げる古代の少年の髪の結い方、紐の結び方の一つ
あさけ(朝明)	夜の明ける頃、夜明け
あさまし	(「あさむ」、即ち、意外さに驚くの形容詞。善悪に通じて用いられる)意外だ 信じ難い、情けない、さもしい、浅はかだ
あさましく	信じ難いくらいに、意外に、不思議なくらいに
あざる(戯る、狂る)	正常な心を失う、取り乱して騒ぐ、うろたえる、ふざける、くつろぐ、儀式ばらない
あざる(戯る)	たわむれる、ふざける、うちとけた、くだけた、しゃれた
あしをそらに(足を空に)	あわてて、浮き足立って、心が落ち着かぬさま
あだあだし(徒徒し)	浮気だ、まことがない
あたらし	立派だ、すばらしい、惜しい、もったいない
あたりあたり(辺り辺り)	そこここ、あちこち、ところどころ、あれこれ
あぢきなし(味気無し)	道理にはずれ正常でない、不当だ、無益だ、つまらない、不都合だ、情けない
あつ(当つ)	(今の当る)打ちつける、突き合わす、あてがう、分配する、推定する、
あつし(篤し)	病弱な、病気がちだ
あつしさ	病氣
あづま	東琴、和琴、倭琴
あてはか(貴はか)	あてやか(貴やか)、上品で美しい、優雅である
あとはかなし	跡形が無い、手がかりがない
あとをかかす(跡を隠す)	行方をくらます、逃亡する、隠遁する
あとをくらむ(跡をくらむ)	行方をくらます、逃亡する、隠遁する
あなかしこ	決して言わないで(禁止の口止め)、ああ恐れ多い、ああもったいない
あなかしこ	ああ恐れ多いことだ (恐惶謹言:手紙の末に慎んで申し上げるとの敬意を表す)
あながち(強ち)	他人にかまわず自分の意思を通す様子、無理矢理である、 強引である、ひたむきなようす、いちずである、不適當だ
あなかま	あな、かまし、ああやかましい
あなづ(侮)らはし	力がなくてばかにされること、侮るべきだ、遠慮が要らない、気がおけない
あはあはし(淡々し)	深い気持ちがこもっていない、あっさりしている、思慮分別が無い、軽薄だ
あはし(淡し)	色・味などが薄い、淡泊だ、人情が薄い、あっさりしている、軽薄である、落着いていない
あはす(合はす)	夢合わせをする、夢判断をする、夢占いをする
あはつけし	軽々しいーあはつかなり
あはひ(間)	あいだ、間がら、交情、取り合せ、配合、都合、状勢
あはむ	非難する、叱言をいう

あはむ(淡む)	疎んずる、ばかにする
あばる(荒る)	(建造物などが)荒れ果てる、壊れている
あはれ	ものに感動して発する声、ああ、全く、しみじみと心ひかれる
あひしらふ	応答する、相手になって対応する、あしらう
あふ(敢ふ)	がまんする、こらえる、完全に…する、どうしても…られない
あへしらふ	あいさつする、応答する、もて取り扱う
あへなし	力を落とす様、がっかりだ
あまり(てなん)	度を過ぎて
あやし(怪し)	不思議、神秘的、珍しい、気味が悪い
あやし(賤し)	見苦しい、貧乏じみている、みすぼらしい、身分が卑しい
あやなく(文無し)	あつてもあるかいない、無意味だ、無駄だ、とんでもない、理不尽だ
あやにく	意地が悪い、あいにくだ、皮肉な
あやにくに	意地悪く、皮肉にも
あやふ(危ふ)がる	危なく思う、気懸かりに思う
あらぬ	そうでない、ほかの、別の
あらまし	こうありたいと願うこと、予定、計画、概略
あらましごと	前もって推測すること、予想
あらまほし	そうありたい、あることが望ましい、好ましい、申し分がない、理想的だ
ありふ(在り経)	生き長らえて、月日を送る
あるじつよくなるとも(主強くなるとも)	夫が決まったところで
あるやう(有る様)	ありさま、ようす、事の仔細、わけ、事情
あるよう(ある様)	ありさま、様子、事のわけ
あれはつ(散れ果つ、離れ果つ)	全く離れてしまう、疎くなる、途絶える
あれまどふ(荒れまどふ)	荒れ果てる、荒れ放題 (まどふ=ひどく…する)
あを(襖)	狩衣、狩襖
いうそく(有職)	①その道に精通した人、ものしり、博識家、故実家 ②優れている、抜きん出ている
いぎたなし(寝汚なし)	眠りをむさぼっている、ぐっすり寝込んでいる、眠たがる性質である、眠りたがりそうである
いきふれ(行き触れ)	行きずりに穢れに触れること
いきをのぶ(息をのぶ)	緊張がとけて一息つく
いざとし(寝眩し、寝敏し)	目が覚めやすい、寝つかれそうもない
いさよふ	ためらう、沈みそうでなかなか沈まない月
いさり(漁り)	漁をすること、魚や貝を採ること
いそぎ(急ぎ)	急ぐこと、用意、準備
いたし(甚し)	はなはだしい、激しい、ひどい、きわめてすぐれている、とても立派である
いたづら(人)	何も無い、何の趣も無い、無駄、むなしい、手持ち無沙汰、何の役にも立たない(人)
いたはし	(いたしと同根)骨が折れる、大変だ、苦労だ、気分が悪い、大切にしたい いたわってやりたい、心苦しい、気の毒だ
いたはり(労り)	懇ろな対応、ねぎらうこと、丁寧に扱うこと、骨を折ること、病氣
いたはり(功り)	てがら、ほねおり
いちはやし(逸早し)	恐ろしい、厳しい、激しい、猛烈だ、勝気だ、気が早い、機敏だ、効験が著しい
いつかし	いかめしい、立派だ
いつき(斎)	潔斎して神に仕えること・仕える人、いつきの皇女(みこ)の略
いつきむすめ	大切に育てている娘、秘蔵娘、箱入り娘
いつく(傳く)	大切にする、秘蔵する
いつくし(厳し)	いかめしい、厳そかである、尊く立派である、整っている、端麗、可愛らしい
いつしか(何時しか)	いつの間にか、知らぬ間に、早くも、早速、すぐさまに、あまりに早い、早過ぎる、
いとき(け)なし(幼きなし、稚きなし)	幼い、がんぜない、おとなげない

いとしも	非常には、それほどに、たいして
いとど	ますます、いよいよ、いっそう、ただでさえ、そうでなくてさえ、これに加えて、その上
いとなむ	いそむ、熱心に用意する、つとめて・・する、せつせとする
いとほし	つらい、気の毒、不憫な、可哀相な、見られたものではない、かわいらしい
いとほしきすじ(いとほしき筋)	おいたわしい筋、かわいそうな筋
いどまし(挑まし)	競争心が強い、けんか腰だ
いどむ(挑む)	抗争を仕掛ける、戦いを仕掛ける、挑戦する、競争する、張り合う、恋を仕掛ける、言い寄る
いなかのかよい(田舎の通い)	田舎への行商
いなぶ(否ぶ、辞ぶ)	承知しない、断わる
いはけ/いわけ	子供っぽい、幼稚である
いはけなく	子供っぽい(らしく)、あどけなく
いはけなし	子供らしい、あどけない、いかにも幼い
いばふ(嘶ふ)/いばゆ	鳴く、いなく(嘶く)
いひあはず(言ひあはず)	話し合って解決する
いひありく(言ひ歩く)	歩りくはその動作をしきりにする意、しきりに言い寄る
言ひ消つ	人の言葉を打ち消す、否定する、言いかけて中止する、咎める、非難する
いひもてゆく(言ひもてゆく)	だんだんと言ひ詰める、せんじ詰める、言いながら行く
いぶかし(訝し)	気がかりである、心もとない、心が惹かれる、知りたい、見たい よく分からない、不審である
いふかひなし(言ふかひなし)	お話にならない、情趣を解さない
いぶせさ	心の鬱積して晴れやらぬさま。
いぶせし	気にかかって心が晴れない、様子が良く分からない、気懸かり うとうしい、汚くて不快、むさくるしい、いとわしい
いへばえに(言へばえに)	言おうとしても、言うことができないで
いまめかし	現代風に派手にうきうきした、享樂的な感じ
いみじ	恐れはばかる気持ちを表す、大変だ、恐ろしい、悲しい、あまりにひどい つらい、激しい、ひどい、すぐれている
いみじき目な	(見せたまひそ)、悲しい目に(あわせないで)
いむことのしるし (忌むことのしるし)	受戒の意、仏法に帰依する者が一定の戒律を僧から授けられる儀式 ⇒その功德によって病が軽くなる
いりあひ(入相)	日が山に入る頃、たそがれ時、日暮れ時、暮れ方に撞く鐘、入相の鐘の略
いりもみ(入り揉み)	荒れ狂う、雑踏する、激しくいらだつ、思い詰めて気を揉む
いろふし(色節)	際立ってきらびやかなこと、派手なこと、晴れがましいこと、光栄、名誉
うえつぼね(上局)	常に住む局(下局)のほかに、御前に参上するときの控えの間として賜る部屋。
うえびと(上人)	殿上人。四位・五位で昇殿(清涼殿の殿上の間に上ること)を許された者と六位の蔵人。
うけ(浮け)	浮き、ウキ
うけはしげ	のろわしそうだ、のろっているようだ
うけばる(受け張る)	積極的な態度を取る、存分に振舞う、はばからず行、堂々とした、遠慮しない、歴とした
うけひく(承け引く)	承知する、同意する
うけふ(祈ふ)	実現を祈る、神に祈って人を呪う、人を呪ってその不幸を祈る
うし(憂し)	自分自身のせいでつらく思う
うし(憂し)	(自分の希望通りにならないので嫌だの意味)厭わしい、辛い、切ない、苦しい、気に入くない、不幸だ
うしろで(後手)	後ろつき、後ろ姿、両手を背中に回すこと
うしろめたげ	気がかりそうである
うしろめたし	気懸かりだ、心配だ
うしろやすし	後のことに心配が無い、気懸かりが無い、安心だ
うたて	ますますひどく、異様な、不快な、嫌な、尋常でない (ひどく進むさま)
うたてのだい(玉の台)	玉のように美しい高殿、立派な御殿(玉台)

うち(打ち)=接頭語	動詞の前につけて、その意味を強めたり、説明を整えたりする
うち返し	前とは一変して、逆に
うちつけ	機に応じてすぐに事を起こすさま、即席、早速、突然、だしぬけ
うちつけ	機に応じて直ぐに事を起こすさま、即席、さっそく、とたん(に)、現金だ、突然だ、遠慮が無い、不躰
うちとけたる	ふだんのままでくつろげる
うちとけまさり	懇ろの仲になってから、それ以前に思っていたよりも良い女だと思うこと
うちとけわざ	普通なら失礼に当るのでないような、立ち入ったことまで
うちはし(打橋)	板を掛け渡した取り外しのできる橋、かり橋
うちみだりのはこ(箱)	乱れ箱
うつくし	可愛い、いとおいしい、麗しい、きれいだ、立派だ、さっぱりしている、やさしい
うつくしむ(慈しむ)	いつくしむ、かわいがる
うつし心(現し心)	しっかりした心、正気、本心
うつしさま(現し状)	正気のありさま、普通のありさま
うてな(台)	四方が見られるように壁を設けず高く作った建物、高樓
うとし(疎し)	親しくない、交わりが浅い、関係が薄い、そっけない、無関係、不審な、気味悪い
うとまし(疎まし)	(それから身を遠ざけたい気持ちがある意)いとわしい、嫌だ、気味悪い、こわい
うひうひし(初々し)	物慣れない、初心らしい、うぶだ、気がひける、あまりが悪い
うむず(倦ず)	心底からいやだなど思う気持ち
うめく(呻く)	(苦しさの余り)言葉にならない声を立てる、嘆息する、不本意・不満が声に出る
うもれいたし(埋もれいたし)	晴れ晴れしない、気が腐るようだ、引っ込み思案だ、内気すぎる
うもれいたし(埋れいたし)	晴れ晴れしない、気が腐るようだ、控え目すぎる、内気すぎる、引っ込み思案だ、
うら(もなく)	下心、警戒心
うらなし	隠しだてしない、へだてがない、警戒してない、安心してうっかり
うるさきみこころ(うるさき御心)	厄介な浮気心
うるはし(麗し、美し)	端麗だ、誠実だ、友情が厚い、壮麗だ、立派だ、行儀が良い、きちんとしている、正式だ、美しい
うれたし	心(うら)痛しの約、いまましい
えせ(似非)	一見似ているが実は違う、つまらない、いやしい
えひの香	匂い袋
えみさかゆ(笑みさかゆ)	顔中に喜びを表して笑うこと
おいしる(老い痴る)/おいしらふ	もうろくする、老いぼれる
おいらか	素直でおだやかである、こせこせしないで落ち着いた、おっとり
おいらか	穏やかなさま、こせつかない、おっとり、おとなしい
おおとのこもり(大殿籠り)	「寝る」の敬語。
おおよそ(大凡)	一般、通常、総じて、普通、ひととおり、およそ
おきつ(掟つ)	計画を立てる、予定する、思い定める、思い定めて命令する、取り扱う、待遇する、指図する
おくらす	後に残す
おくる(後る)	後からついて行く、後に残る、留まる、生き残る、劣る、不足する、短い
おこたる(怠る)	休む、怠ける、病気が良くなる、回復する
おこないびと(行い人)	修験者
おこる	発作がおこる
おしこる(押し凝る)	一ヶ所に固まる
おしたつ(押し立つ)	無理に行う、無理無体なことをする
おしなべて	すべて一様にして、ひっくるめて、普遍に、なみなみ
おそばめ(御側目)	横顔
おだし(穩し)	安らかに落ち着いている、穏やかだ
おちとまる(落ち留まる)	残る、残存する、落ち着く、滞在する、生き残る
おとど(御殿ないし大殿)	貴人の邸宅の尊称

おとなし	大人びている
おとなひ(音なひ)	音がすること
おどろおどろし	驚くばかりだ、いかにも恐ろしい、大袈裟だ、仰々しい
おどろかす(驚かす)	気付かせる、注意させる、眠りを覚ます、起こす、びっくりさせる
おどろく(驚く)	はっと我に返る、そうと気がつく、目を覚ます、眠りから覚める、びっくりする
おにほひ(御にほひ)	若君の照り輝くような気品。
おのが(己が)	私が、自分自身が/の
おのがどち	自分たちの仲間同士
おひなおり(生ひなほり)	悪かったものが良くなること
おぼえ	人からの思われ方、世間の受け、評判
おほかた(大方)	①貴人の母の尊称、大奥様 ②普通、一通り、並々の
おほけなく	身の程知らずである、恐れ多い、もったいない
おぼしむ(思しむ)	思いつめる
おぼしつく(思しつく)	心が惹かれる、愛着する
おぼしやる(思し遣る)	「思ひ遣る」の尊称、お思いやりになる→「おもひやる」参照
おほぞう	普通だ、通り一遍だ、いい加減だ、ありきたりだ
おぼつかながらせたまふ	ぼんやりしてはつきりつかめない、実情が良く分からず不安、ご心配あそばす
おぼつかなし	ぼうっとして、はっきり見えない、意味がはっきりしない、心細い 気懸かりだ、不安だ、不審だ、いぶかしい、待ち遠しい
おほどか	おおよう、おおらか、おっとり
おほどきて	おおらかであって
おほなおほな	精一杯の努力で、前後を忘れるほどの熱心さで、おそるおそる、おっかなびっくり
おぼめかし	不確かである
おほめく	そらとぼける、おぼつかなく思う、はぐらかす、はっきり思い出せない、ぼんやり
おほやけ(公)	朝廷、政府、天皇ないし皇后、大きな屋敷、表向き、一般的な、世間的な
おぼゆ(覚ゆ)	そう思われる、想像される、似る
おぼろげならず	(程度が)並々でない、普通でない、格別
おぼろげにはあらじ	並々のお方ではない ←格別、程度が普通ではない
おもいくたす(思い下たす)	悪く思う、心にけなす、見下げる
おもいよる(思い寄る)	思い当たる、考えつく、心が惹かれる、慕って迫る
おもだたし(面立たし)	名誉だ、身の光栄だ
おもと	お方
おもなし(面無し)	恥ずかしい、面映い、心臓が強い、厚かましい
おもはずに(思はずに)	心外である、氣にくわない、思いがけない、意外である
おもひあがる(思ひ上がる)	志を高く持つ、自負する、自任する、高さを志向する、立派な人間になろうと努力する
おもひおとす(思い貶す、思い落す)	見下げる、さげすむ、軽んじる
おもひおとす(思ひ貶す)	(他人を)劣っていると考える、見下げる
おもひけつ(思ひ消つ)	忘れようと努める、無理に忘れる、無視する
おもひなす(思ひなす)	そうと決め込む、思い込む
おもひのどむ(思ひのどむ)	気を静める、気持ちを落ち着ける、平穩に生き長らえる
おもひはなつ(思ひ放つ)	思い捨てる、愛想をつかず、あきらめる
おもひひと(思ひ人)	慕い思う人、恋人、情人、愛人 ←尊敬体は「思ほし人」)
おもひやすらふ(思ひやすらふ)	躊躇する
おもひやる(思ひ遣る)	遠くのことを思う、思いをはせる、想起する、想像する、身の上を思い心を慰める 同情する、気を晴らす
おもふべき人(思ふべき人)	かわいがるのが当然の人
おもほしものす(思ほしものす)	あれこれと考え込む
おもむく(面向く)	その方向を向く(向わせる)、そのように仕向ける、同意する、口説き落とす

おもむけ(趣け)	しむけ、意向
およすく	成長する。
おりたつ(下り立つ)	身を入れて事にあたる
おろか	なおざり、疎略、いいかげん、疎遠である、馬鹿だ、未熟だ、不適當だ
おろそか(疎か)	重んじない、なおざり、いいかげん、簡素、粗末、よくない、かりそめ
かいしろ(垣代)	青海波の舞楽で笛を吹き、拍子をとる楽人
かいなで(掻き撫で)	一応は形ができていて、とおりにいっぺん、初心
がうけ(豪家)	権勢のある家、権門、権勢、頼りになる物
かうじ(勤事)	勘当、勅勘、拷問 (「かんじ」と読む場合もあり)
かうぶり(冠)	巡爵。叙爵(五位になること)、六位の蔵人を6年つとめ、従五位下に叙せられる
かかづらふ	関係する、かかわりを持つ、たずさわる、従事する、まといつく、わずらう、悩む
かかやかし(輝かし)	まぶしい、きらきら輝いて、恥ずかしがる、恥ずかしがって顔をまっかにする
かきくづす	少しづつ言ったり考えたりする、ぼつぼつと話す
かきくらす	空が暗くなる、曇る、心が暗くなる
かきたる(掻き垂る)	ポタリポタリと落ちる、垂れる、くして削って垂らす
かぎり(限り)あり	無限ではない、最高である、決まっている
かぎり(限り)なし	この上ない、最高である、最も良い、非常である
かぎり(限り)	きまり、掟、限度、最終、臨終、おり、機会、最上、あるだけ全部
かぎりあらむ道(限りあらむ道)	前世の因縁で、その時期も定められている死出の道。
かけかけし	(男女間のことを)しよつちゆう心に掛けている、好色めいている、懸想めいている
かけても・・・なき	強い打消し、いささかも、かりそめにも、決して・・・ない
かけまく(懸けまく)	言葉にかけて言うこと、言葉に出すこと、心にかけること
かごか	周囲を物に囲まれて閑静な状態 ← 囲む
かこつ(託つ)	関係がないことを無理に理由にする、かこつける、恨みに思い愚痴る
かごと(託言)	言いわけ、口実、愚痴、苦情、恨み言
かざし(挿頭)	髪や冠に挿す花や枝、または造花
かさやどり(笠宿り)	軒下や木の陰などに雨宿りすること、恋の立寄り所
かしこし(畏し)	恐ろしい、恐るべきである、恐れ多い、怪しむべきである、尊い、ありがたい、高貴
かしこまり(畏り)	遠慮、御礼、謝辞
かしづき(傳き)	大切に養育すること、大切に世話すること、世話する人、介添え役
かしづきぐさ	かしづく相手、大切にする相手、秘蔵っ子
かずそふ(数添ふ)	数が増える、多くなる、数を増やす、多くする
かずなし(数なし)	長く続かない、やがて終わりになる、数え切れない、無数で
かずまふ(数まふ)	人並みに扱う、数える
かすむ(掠む)	奪い取る、欺く、だます、ほのめかす、あてこする
かたおひ(片生ひ)	十分に成長・成熟していないこと、未完成、未熟
かたくなし(頑し)	要領が悪い、不器用だ、愚かしい、みっともない、気が利かない
かたざま(方ざま)	方向、法学、その向き、方面、地位
かたじけなし(忝し)	面目ない、恐れ多い、もったいない、ありがたい
かたなり(片生り)	(体の発育が)十分でないこと、未熟、不十分
かたは	不完全な様、不器量、見苦しい
かたはらいたし	気の毒である、困った、恥ずかしい、居たたまれない
かたはら臥す	横向きに臥す
かたびら(帷子)	几帳・帳などに用いるきれ
かたへ(片方)	一對のもの一方、片側、片方、半分、かたわら、そば
かたほ	不完全な、できの良くない、未熟な
かたみに(互に)	お互いに、かわるがわる

かたらひつく(語らひつく)	言い寄って近づきになる(男女の仲について)
かたらひつく(語らひつく)	言い寄って親しくなる(男女関係に使う場合が多い)
かつかつ(且つ且つ)	不満足ながら、ともかくも、不完全に、まあまあ、わずかばかり、早くも、とりあえず、急いで
かど(才)	才能、利発、才気
かどかどし(オタシ)	才気がある、賢い、よく気が利く、角が多い、角張っている、負けん気で
かなぐる	乱暴に振舞うさまに言う語
かなし(愛し)	心に沁みていとしい、かわいくてたまらない
かぬ(予ぬ)	将来のことを予定する、予期する
かはほり(蝙蝠)	紙を張って作った扇
かひをつくる(貝を作る)	口をへの字型にする、泣き顔をする、ペソをかく
かふ(交ふ、替ふ)	差し交わす、取り替える、交換する
かへさひもうす(返さひ申す)	ご辞退申し上げる
かまへいだす(構へ出だす)	こしらえ出す、工夫して考え出す
かむだちめ(上達部)	公卿。三位以上の者。ただし参議は四位でも。
からし	つらい
き(綺)	織物の名前、唐渡来の錦に似た絹織物
きこえん(聞こえん)	お話し申す
きこむ(着込む)	下に髪を込めて、衣を着る
きしろふ(軋ろふ)	争う、抗争する
きやうざく(警策)	詩文・人柄のすぐれている意、際立ってすぐれている ←策は馬にあてる鞭
きよら	最上の美しさ。
きりかけ(切懸)	板塀、二本の柱の間に横板を打ちつけた塀
きわ(際)はきわ	貴人は貴人、卑しい者は卑しい者と身分相応の人と語るべきということ
くさ(種)	物事を生じること、たね、種類、しな
くさはひ	物事の種や元となるもの、(食品)
くし(口詩)	物にも書きつけず口で言う詩
くじ(公事)	朝廷における政治上の仕事、政務、宮中の行事・儀式、表向きのこと
くくたし	こまごまとしている、煩わしい
くたす(腐す、朽たす)	腐らせる、朽ちさせる、悪く言う、けがす、損なう、破る
くだりはし(下り端)	前頭部左右、両耳の上辺の毛髪それぞれ一束を胸のあたりで切り揃えたもの 頬・顎にかけて垂れ下がり、顔立ちにアクセントがつく。
くちおしからず(口惜しからず)	まんざらでもない
くちさがなし(口さがなし)	さがなし＝性質が悪い
くちとし(口疾し)	(返事や返歌が)すらすらと口から出る、すぐ言う
くちをし(口惜し)	不運だ、情けない、残念だ、がっかりだ、劣っていて話にならぬ、意外だ、取るに足らない
くづしいづ(崩し出づ)	(話の種を)片端からぼつぼつ出す
くづほる(頹る)	衰える、意気がくじける、気が滅入る
くつろぐ	ゆるくなる、ゆるむ、ゆったりした気分になる、安心する、ゆとり/余裕がある、融通がつく、休息する
くまぐましく	暗々(くらぐら)しく、くま＝灯火の届く範囲外
くらす(暗す)	(涙で)暗くする、曇らす
くる(眩る)	目がくらむ、めまいがする、思い惑う
くる(暮る)	日が沈んで暗くなる、過ぎる、終わりになる、人生の終わりに近づく
ぐわんはたす(願果たす)	その願が叶えられたことに対してお礼に参詣し、神前に供物を捧げる
け(異)	違っている、すぐれている、まさっている
けいめいす(経営す)	世話に忙しく奔走する
けざやか	はっきりしている様子
けしう(異しう)はあらず	悪くは無い、相当なものだ

けしからず(異しからず)	常軌を逸している、不都合だ、不思議だ、怪しい
けしき	(外面に現れた人の)様子、態度、顔つき、意向、機嫌【静止的固定的】
けしきあり(気色あり)	趣きがある、おもしろい、怪しい、風変わりな
けしきばむ(気色ばむ)	そのような様子が外に現れる、兆す、思わせぶりな様子を見せる、気どる
けずる(梳る)	櫛を入れる
けち(結)	(弓の)競技会
けどる(気取る)	生気を奪う、結果として、死んだり、気が狂ったりする
けに(異に)	常と違って、妙に、特に、ことさら(…より…の形で)いよいよ、いっそう
けはい	態度、様子【動的雰囲気的な感じ】
こがしたる	香を深くたきしめてあること
ここし(子子し)	子供子供している、子供っぽい、おおらかだ
ここのしなのかみ(九品の上)	(ここのしなのかみ、くぼん)九品浄土の上品、極楽浄土
こころ	こんなに多く、たくさん
こころいる(心入る)	心が惹かれる、心が深くとどまる、(他動詞として)熱心にする、夢中になる
こころうし(心憂し)	(自分のことについて)悲しい、情けない、辛い、苦しい (他人のことについて)いやな感じだ、いい感じがしない
こころうつくし(心うつくし)	気立てがかわいらしい、素直だ
こころおく(心置く)	心を残す、執着する、気を付ける、用心する、心隔てる、分け隔てる、遠慮する
こころおそし(心おそし)	心が鈍い、気がきかない
こころおとり(心劣り)	予想より劣っている、予想より悪く感じられる ←心まさり
こころぐるし(心苦し)	心に苦痛を感じる、気懸かりである、気の毒だ、いじらしい
こころげさう(心化粧)	心の用意を整えること、緊張すること、異性を意識し容姿などに気をつける
こころごとに(心殊に、心異に)	趣が格別である、格別立派に、心遣いが格別である
こころしらふ(心しらふ)	心づかいする、注意する
こころすごし(心凄し)	物寂しい、気味が悪い、恐ろしい
こころづかい(心遣い)	(いろいろと細かく)気を配ること、警戒
こころづから(心づから)	自分の心から、自分から求めて、自発的に
こころづき(心付き)	心になうこと、気にいること
こころづきなし(心付きなし)	心が惹かれない、興味が持てない、無愛想だ、意に満たない、気にくわない、嫌だ
こころづくし(心尽し)	思いを尽くすこと、いろいろと気をもむこと、気のもめる
こころづけ(心付け)	心づかい、分別、配慮、祝儀、チップ
こころとし(心疾し)	悟りが早い、機敏である、よく気がつく
こころなし(心無し)	無分別、不注意
こころにくし(心にくし)	奥ゆかしい、慕わしい、深みがある
こころにくし(心憎し)	奥ゆかしい、慕わしい、深みがある、教養がある、いぶかしい、あやしい
こころにつく(心につく)	意になう、気に入る
こころのおに(心の鬼)	自分の心の中の自分自身を責める気持ち、良心の咎め
こころのおに(心の鬼)	やましい気持ち、やましい心を咎める心、良心の呵責
こころば(心葉)	贈り物の箱などに付けて飾りとする梅・松などの枝、飾り糸で作った飾り花
こころばせ(心ばせ)	気立て、心がけ、才気
こころはづかし(心恥ずかし)	こちらが気おくれするような、立派な
こころばへ(心ばへ)	心の持ち方、性向、心の現われ、趣向、風情、趣意、意味
こころばむ(心ばむ)	心遣いをする、気取る、いい意味の気取りを持つ
こころむけ(心向け)	心遣い、意向
こころもとながる(心もとながる)	待ち遠しがる、じれったがる
こころもとなし(心許無し)	心がいらだつ、待ち遠しい、じれったい、不安である、気懸りである はっきりしない、事情に疎い
こころやすし(心やすし)	のんきである、安心である、気楽である

こころやまし(心病まし/疾し)	不愉快だ、腹立たしい、心外である、不満だ、もの足りない、相手に引け目を感じて
こころゆく(心行く)	気が済む、満足する、気分が晴れ晴れする、せいせいする
こころゆるび(心弛び)	心の緊張がゆるむこと、のんびりとすること
こころよす(心寄す)	思いをかける、ひいきする
こころよせ(心寄せ)	心を寄せること、ひいきにすること、あてにすること、期待
こころをやる(心を遣る)	心を慰める、気晴らしをする、得意になる、自分を満足させる
こしのぶ(腰のぶ)	蟄居している人が、堂々と外出・歩行をする
こしらえおく	機嫌をとる
こしらふ(拵ふ)	構え作る、建設する、製造する、仕立てる、用意する、工夫する、装う、飾る
こしらふ(慰ふ、諭ふ)	なだめる、すかす、機嫌を取る、さとす、さとして誘う、取り繕う、とりなす、導く
こしらへおきはべる	あれこれ言ってなだめる、機嫌を取る
ごたち(御達)	御は婦人の尊称、上級(年配)の女房ども
こちたし(事痛し、言痛し)	はなはだしい、大袈裟なことである、わずらわしい
ことあふ(事合ふ)	物事が思い通りになる、都合よく行く
こといみ(言忌み、事忌み)	不吉なことを言わないよう慎むこと
ことごとし(事々し)	大掛かりだ、仰山だ、ものものしい、もったいぶっている
ことさらぶ(殊更ぶ)	わざとらしいように見える、様子ぶる
ことそぐ(事削ぐ)	質素にする、省略する
ことたし(言痛し、事痛し)	うるさい、わずらわしい、しつこい、ことごとしい、仰山である、おびたしい
ことつけ/ことづけ(言付け、託け)	かこつけ、口実、伝言
ことなる(殊なる)	格別の、見事
ことよがる(言よがる)	相手に好感を抱かせるように言葉巧みに言う、きれいごとを言ってよこす
ことわる(理る、断る)	筋道を立てて説明する、判断する、事情を明らかにする、訳を話す、謝絶する
このかみ(子の上)	年長、年上、兄または姉
このもかのも(此の面彼の面)	この面、あの面、両面、あちらこちら、所々、方々
こひぢ(小泥)	どろ(恋路に懸けて用いること多し)
こまどり(小間取り)	入れ違いに
こまやか	色の濃いさま
こめく	(主に若い女性用)子供らしく見える、可愛らしく見える、おっとりして品がある、おおらか、おおよう
こりずまに(懲りずまに)	前の失敗に懲りもしないでふたたび、性懲りもなく
こわづくる(声づくる)	咳払いをして合図する、声をかける、作り声をする
さいなむ(苛む)	責める、しかる、折檻する
さうざうし	物足りない、心寂しい
さうじみ(正身)	まさしくその人、当人、本人
さうどき	騒動
さえ、ざえ(才)	舞楽の才能
さがし(険し)	危険である
さかしき人	判断の確かな人、気丈な人
さかしら(賢しら)	利口そうに振舞うこと、物知りぶること、賢人ぶる、よけいな、差しで口、言葉を勝手に差し挟む
さがなし	(性質が)良くない、意地が悪い、思いやりのない、いたずらだ、口に遠慮がない
ささがに(細蟹)	小さいカニ、クモの異名、「くも」「いと」「い」の枕詞
さしぐし(さし櫛)	髪飾りにさす櫛、髪を梳くのには用いない
さしぐみに	何かがあった直後、早々に、さっそくに、不意に
さしつぎ(差し次ぎ)	その次、次の位置
さしはふ	わざわざ目指してする
さだ(時)	とき、盛りの年頃
さださだと	確かに、しっかりと

さとし	(神仏の)お告げ、神託
さはる(障る)	差し支える、邪魔になる、さえぎる、病気の原因になる、病気になる
さぶらいわらは(侍童)	少年の召使
さやか	はっきりしている、明瞭である、明るい、澄んでいる
さらなる別れ	避けられない別れ、死別
さらぼふ	やせ細って骨ばかりの姿
さるべき(然るべき)	万事はそうなるべき前世からの定めごと
されくつがえる	はなはだしくしゃれる
されたる	風情のある(洒落たる)
さんざ(参賀)	年賀の拝礼
しあふ(し敢ふ)	(十分に)成し遂げる、しおおせる、押し切って・・・する
しいづ(し出づ)	成し遂げる、成就する、調達する、調達して差し上げる、整えて差し出す、始める
しか(然)	そのように、そう
ししこらかしつる	しそこなう、病気をこじらせる
しじま	黙っていること、沈黙、無言、静寂
しそく(紙燭)	室内用の照明具 松の木で作った棒の手元を紙で巻き、先端を焦がし油を塗って火をともし
したがひ(下交ひ)	衣服の前を合わせる時に下になる方の右側、合わせた時に内側になる部分
したしくおもい(親しく思い)つぶる	心から馴れ親しむ
したたむ(認む)	処理する、用意する、したくする、取り締まる、食べる、書き記す
したつ(仕立つ)	作り立てる、つくろいたてる
した待つ(下待つ)	心に待ち受ける、心待ちに待つ
しどけなし	しまりが無い、だらしない、くつろいでいる、気楽にしている
しとね(褥)	約四尺四方の(今で言う)座布団
しとみ(蓐)	格子の裏に板を張ったもの
しにかへりおもふ(死にかへり思ふ)	死にたいくらいに思っている
しののめの(東雲の)	夜が明ける頃、明け方、あけぼの
しはぶきやみ(咳病)	咳の出る病気、感冒
しはぶく	せきをする、せきばらいする
しはふるひ(びと)(諸説あり)	皺古い(皺のよった)老人、咳きがちの田舎の老人、柴集めの身分の低い人(柴振人)
しふねし(執念し)	しつこい、強情な
しほじみぬる	潮水にしめる、世間の苦労を積んで生活経験が豊かな人
しほたる	潮垂る、涙を落とす
しほち(新発意)	新たに発心して出家した者
しほどく(潮どく)	潮水に濡れる、涙に濡れる
しほなる	潮水に濡れる、垢じみる、しほじむ
しむ(染む)	執心する
しめ(標)	山道などの道しるべ、しめなわの省略形、神域または領地への立入り禁止の標識
しめやか	落ち着いてもの静かなこと、しんみり、しみじみしたさま
しめる(湿める)	水分を含む、静まる、衰える、元気がなくなる、落ち着く、物静かだ
しもびと(下人)	召使、下男、下女、身分の低い者
じやうずめく(上衆めく)	貴人らしく見える、人柄が尊く見える
しやうにち(正日)	四十九日、一周忌当日
しらで(知らで)	とんちやくせずかまはぬ
しりめ(後目)	流し目、眼球だけ動かして脇の方を見ること
しるし(著し)	はっきりしている、明白な
しるし(標、印、徴、験)	見分けるための心覚え、目印、合図、兆し、前兆、証拠

しるべ(導)	導き、手引き、道案内、知り合い
しろしめす(知ろしめす)	お治めになる、統治なさる (知るの敬語)知っていらっしやる、ご存知である
すががきて(清掻きて)	和琴の手法
すかす	飲ませる
すかす(透かす)	間をあける、減らす、透けて見えるようにする、はずす、取り除く
すかす(賺す)	だます、おだてる、機嫌を取る
すがすがと(清々と)	とどこおりのないさま、すらすら、あっさり、さっぱり、容易に
すきひがむ(透き僻む)	抜けた歯の間から息が切れて、変に聞こえる
すくすくし(すくずくし)	真面目すぎる、無粋だ、野暮ったい、情け知らずだ、すげない、やさしさのない
すくすくし、すくずくし	まじめだ、まっすぐだ、真面目すぎる、無愛想だ、情け知らず、無粋だ、野暮ったい
すくせ(宿世)	前世、前世からの因縁
すくよか(健よか)	健康、元気、丈夫、堅実、柔らかさが無い、人情味(風流気)がない、無愛想、冷ややかに。
すげなし	
すげむ	老人の歯が抜け、唇の回りにしわが寄って、口がすぼまる
すさび(荒び、遊び)	心がある方向へどンドン進むこと、気の向くまま、気まぐれ、もてあそび、慰み
すさまじ	寒々とした感じだ、荒涼とした感じだ、寒い、不興である、つまらない
すさむ(荒む)	心に留めて愛する、賞罰する、顧みる、弄ぶ、避ける、いとう、きらう
すずろ(漫ろ)	(自然に心が惹かれる時に言う語、結果を考えずに事を行うことを言う語) 何という理由や目的無しに、あてもなく、漫然と、むやみ、やたら、思いがけなく
すずろごろ(漫ろ心)	そわそわと浮ついた心、あさはかな心
すずろなる人	これといった関心の無い人、情趣を解さない人、心ない人
すずろびたり	まとまりがなく、支離滅裂である
すべなし(術無し)	どうにも方法がなくて困る、どうしようもなく苦しい
ずほう(修法)	密教で行う加持祈禱
すまふ(争ふ)	お互いに張り合う、負けまいと争う、拒絶する、辞退する、断る、相撲を取る
せく(塞く、堰く)	さえぎって通さない、阻む、邪魔して恋人に会わせない、押さえつける、制止する
ぜじやう(軟障)	(柔軟な障子の意味)寝殿造りで垂れ下げて仕切りにした幕
せむ方	なすべき方法
せめて	痛切に、切実に、しいて、無理に、なおも、続けて、非常に、あまりに、せいぜい
せんざい(前栽)	庭先に植えた草木、庭木
ぞうし(曹司)	部屋。局に同じ。
そちら	そちら、その当り、数が多いこと、沢山、非常に、はなはだ
そしう	秀でた、物事の上手なさま、巧みなさま、一説に民間の物知り
そそき(注き、雫)	(水などが)飛び散ってかかること、とばしり
そそく	忙しそうに振舞う、そそくさする
そそく(注く)	(水が)音を立てて流れる、(雨や雪が)降る、(涙が)しきりに落ちる、かける、水を引き入れる
そぞろ(漫ろ)	理由もないことが人の意思にかかわらずある状態に進んでゆく感じを表す(同「すずろ」)
そぞろかなる	背の高いさま
そで(袖)まきほさむ人	涙で濡れた袖を枕に共寝をして、乾かしてくれる人
そねみ(嫉み)	ねたみ、嫉妬、恨み
その人とは	どこそこの誰それということ
そばそばし	角張っている、よそよそしい、親しまない
そばだつ	一方の端を持ち上げる、(枕をそばだてる=枕から頭を起こして)
そばむ(側む)	横向きになる、ひがむ
そばめ(側目)	横から物の姿や形を見ること
そばめる(側める)	横向きになる
そばる	ふざける、戯れる

そよ	そう、そのことよ
そよめく	風で草木がそよぐ、さらさらと音がする、人の動く気配がする 人々がざわめく音がする、活気づく
そらおぼれして	そらとぼけて
そらだきもの	どこからとも分からぬよう室内に漂わず香
そわう(孫王)	天皇の孫
たいだいし(怠々し)	怠慢だ、不心得だ、不行き届きだ、困ったことだ、よろしくない、不都合である
だいばん(台盤)	長方形の食卓
たがひめ(違ひ目)	意に反する事態⇒須磨流たく
たがふ(違ふ)	違ふ、合わない、期待・意向に背く、普通とは違っている
たぐひ(類)	並ぶもの、一緒に居るもの、仲間、同類
たぐふ(類ふ、比ふ)	添わせる
たけし(猛し)	強い、勇ましい、荒々しい、勢いが盛ん、気丈だ、心強い、役に立つ
ただ(直、徒)	まっすぐ、ふだん、何もしない
たたずむ	徘徊する、うろつく
たたみ(畳)	今の薄べりのような物。厚薄長短があった。
たちそふ(立ち添ふ)	付き添う、他人の後を追って死ぬ
たちど(立処)	立てる場所
たちぬる月	先月
たちみ(立ち居)	立ったりしゃがんだり、気ぜわしく振舞う有様
たつ(立つ)	車を路上に止める
たづき(方便、手付き)	手段、てだて、方法、見当、目標
たづきなし	たよりが無い、よるべがない、方法がない
たてて(立てて)	主として、もっぱら、殊に、特に
たとうがみ(畳紙)	懐紙
たとしえなく	比べようがなく、たとえようがなく
たどらん人	筋道を立てて、ものを考えるような人
たどりて見えん	あれこれ考えてやっと勘づいたと(女に)思われる
たどる	考えてみて思い当たる
たばかり	工夫する
たはやすし	たやすい、容易だ、やさしい、軽々しい、軽率である
たびし(礫石)	礫石、たびいし、小石、問題にならぬ卑しい者
たびしかわら(礫瓦)	礫や瓦と同様に、数にも入らぬ身分いやしい者の比喻
たひらか(平らか)	平らだ、穏やかだ、安らかだ、つつがない、無事平安
たふ(耐ふ、堪ふ)	がまんする、こらえる、持ちこたえる
たま(玉)だすき	どっちつかずの状態
たまへ(給へ)	いらっしゃい(命令形で人を誘うのにいう言葉)
たゆむ(弛む)	疲れる、だるくなる、油断する、油断させる、気を許す、怠る、せずに済ます
たるひ	つらら
たをやぐ(嬾やぐ)	物柔らかかである、しなやかである
ちぎり(契り)	運命
ちゅうじょう(中将)のおもと	御息所つきの女房(上臈)
ついいる	突き居る、膝をついてすわる
ついち(朔日)	(月立ち)月初め数日間
つきかげ(月影)	月の光
つきしろふ	お互いにかた・ヒザなどを突付き合う、突き合う
つきづきし(付き付きし)	感じが良い、好ましい、似つかわしい、ふさわしい

つきなし(付き無し)	似つかわしくない、相応しくない、どうして良いか分からない、処置なしだ 不案内だ、見栄えが悪い
つきなみ(月次、月並み)	月ごと、毎月、平凡、尋常、一樣、珍しくないこと
つくづく(熟々)	物思いに沈むさま、しみじみ、しんみり、手持ち無沙汰なさま、ぼんやり、ぼつねん
つくりあはす(作り合はす)	2つの物を作って一つに合わせる、調和が取れるようにする、お揃いで作る
つごもり	月末、月の最後の日、みそかとも
つつしみ(慎み)	物忌み、潔斎、用心、遠慮、物を隠すこと
つつましう	心が慎まれる、恥ずかしい、遠慮される
つつむ(包む、慎む)	回りを覆って中に入れる、くるむ、周囲を取り巻く、気兼ねする、慎む、遠慮する
つと	(緊張して動かずにいるさま)じつと、そのまま、そつと、急に、さつと、ふと
つと・づと(苞)	物をわらに包んで持ち運びに便利にしたもの、わらづと、その土地の産物、みやげ物、
つとめて	(事があった)その翌朝、早朝、朝早く
つひゆ(弊ゆ、潰ゆ)	悪くなる、弱る、やせ衰える、使用してだんだん減っていく、崩れる、破れる
つま(端)	はし、縁、きわ、軒のはし、軒端、端緒、手がかり、きっかけ、たより、いとぐち
つまづま(端々、棲々)	はしばし、所々のはずれ
つまど(妻戸)	開き戸 ←遣り戸＝引き戸、くるど(枢戸)＝回転装置のついた戸(扉)
つまど(妻戸)	寝殿造りの四隅の出入り口の戸。両開きで内側と外側との掛け金あり
つみよりごと(罪避りごと)	責任逃れのためにすること
つむ(抓む)	指先でつねる、つまむ
つやだつ(艶だつ)	様子ぶる、風流がる
つゆけし(露けし)	露の湿気が多い、露っぽい、涙っぽい
つより(強り)	強る(気持ちを引き立てる)こと、強み、力
つよる(強る)	強くなる、気強く思い立つ、奮起する
つら(列)	連なること、行列、列、同類、仲間
つらし	【相手のせいで】つらい、心に苦痛を感じる、堪えがたい、残酷だ、ひどい、薄情だ
つらら	張り氷
つれなし(連れ無し)	無情で寄りつけない、何の反応も無い、心中のことを表情などに出さない 冷淡、そ知らぬを顔している、気にとめないで知らぬ顔をする、平気だ
つれなしづくる	素知らぬ振りをする、つれないさまを装う、平気な顔をする
てうはい(朝拝)	元旦の辰の刻(午前8時頃)に百官が天皇に賀辞を奏する儀式
とかう	(とかくの音便)あれやこれやと、いろいろと、何とかかんとか、とやかく(打消し)
とかして	(とかうして、とかくして)なんとかかんとかして
とがむ(咎む)	不審がる、あやしがる
とがめ(咎め)	責めること、なじること、非難
ときめく(時めく)	ちやほやする、たいせつにする
とけがたかりし	なかなか思いを受け入れてくれない
とこよ(常世)	永久に変わらないこと、常世の国の略
とこよのくに(常世の国)	不老不死であるという想像上の楽土、仙郷、昔極めて遠隔の地にあると考えられた国
ところせし(所狭し)	狭くて窮屈だ、不自由で窮屈だ、きづまりである、うっとうしい、堂々としている
とざし(鎖し、肩し)	門戸を閉ざすこと、門戸をさし固めるもの、錠・掛け金の類
とざまかうざま	あれやこれや、あれこれ、とやかく
どち	同士、仲間
とのいもの(宿直物)	宿直の際使用する衣服や夜具
とばかり	しばらく
とぶらひ	訪問、見舞い、お世話
とまる	動くのを止める、後に残る、生き残る、中止になる、たたずむ、立ち止まって休む、通じなくなる
とみ	にわか、急な
とよむ/どよむ(響む、動む)	鳴り響く、大声を挙げて騒ぐ、騒ぎ立てる、ずきずき痛む

とりどりに	それぞれに趣の違うさま、いろいろ・それぞれ特徴のあるさま
とりなす(取り成す、執り成す)	手にとってそのような形にする、手にとって扱う、うまくつくろう、調子をあわせる、考える、工夫する 解釈する、取り沙汰する、いいふらす、ちょっとした物事でも風流の種に扱い和歌など詠む
なおざり(等閑)	深く心にとめない、本気でない、いい加減だ、冗談
なかさだのすじ(中さだの筋)	古代ほどではないが、少し古い時代、中昔の流儀で
なかぞら(中空)	どちらつかずのさま ←空の中ほど
なかぞら(中空)	空の中ほど、中央、(道の)途中、中途半端
なかなか	中ほど、なまじっか、中途半端だ、望ましくない、かえって、反対に、むしろ、とても
ながめ(眺め)	物思いに耽りながら見るとも無くぼんやりと見ていること
なぐさむ(慰む)	心が晴れる、気が紛れる、楽しませる、おもちゃにする、弄ぶ、貞操を奪う
なげ(無げ)	なさそう、なきにひとしい、さりげない、ちょっとした、真心・誠意がない 心のかもっていない、無造作な、かりそめの
なごりなくなりにたる	余す所無くお互いに関わり合ってしまった仲になり(ながら)
なす(やすいなす)	ことさら・する、わざと・する(わざとためらう、ぐずぐずする)
なすらひ(準ひ、擬ひ)	類すること、又、その人、たぐい、ふさわしい、似つかわしい
なだらかに	平穩無事、穏やか、平和、のんき、ほどよいさま、流暢だ
なつかし(懐かし)	身近におきたい、近づきたい、心が惹かれる、好ましい、いとしい、慕わしい
なづさふ	水につく、水に浸る、馴れ親しむ、親しくなじむ
なづむ(泥む)	行き悩む、滞る、苦しむ、こだわる、執着する、執心する、打ち込む
など	なぜ、何と
なにごころ(何心)なし	何の気もない、無心だ、無邪気だ、あどけない
なのめ	ありふれているようす、普通である、平凡である
なべて	一面に、おしなべて、一般に、普通、一般
なほこと(等閑言)	なおざりな気持ちで言った言葉、いいかげんな言葉
なほこと(等閑事)	なおざりにすること、いいかげんにすること
なほざり	本気でない
なほなほし(直々し)	普通だ、平凡だ、違った点が無い、つまらない、卑しい、おざなり、すなお
なま(生)	不完全、どことなく、なんとなく、なまはんか
なまおんな(生女)ばら	身分や教養の低い女たち(「生」は未熟の意で、蔑んだ言い方)
なまはしたなし	何となくきまりが悪い
なまめく	自然の美しさが、他に毒されることなく、清新さを保つ、新鮮に見える 瑞々しい、若々しく美しい、上品だ、優雅だ、貴族的、しつとりと落ち着いている
なみなみ(並み並み)	同様であること、同等、同類、平凡なこと、普通のこと(もの)
なめり	なる/なり/なん+めり(推量の助動詞)
なやまし(悩まし)	病気などのために気分が悪い、官能を刺激して心を悩ませる
なやむ(悩む)	わずらふ、病気をする、思いわずらう、わずらわしく言う、非難する
なよぶ	なよなよする、優雅に振舞う、柔らかくしなやかにする、女性らしくしとやかにする、
ならふ(馴らふ)	経験を積んで良く知る、なれる
にくし(憎し)	気に入らない、癪に障る、嫌である、醜い、天晴れである、感心である
にげなし(似げ無し)	似合わない、ふさわしくない、不釣り合い、不相応
になう(二なう)	二つとない、類が無い、ぬきんでいる
にほひやか(匂ひやか)	つやつやと美しい様子、はなやかに美しい様子
によべったう(女別当)	斎宮家の長官(男女各一人の内、女の方)
ねおびる(寝おびる)	寝ぼける
ねたがる(妬がる)	恨めしがる、憎らしく思う、いまいまく思う、妬ましがる、悔しがる
ねたし(妬し)	(他人の行為に)憎らしい、癪に障る、(自分の行為に)腹が立つ、しまった
ねぢく(拗く)	曲がりくねる、ねじれる、筋道を外れる、不正だ、ひねくれる、ひがむ
ねびまさる(ねび勝る)	大人になるに従って優れてくる、美しく成長する

ねびる	若さを失う
ねんず(念ず)	堪え忍ぶ、我慢する、心に祈る、
のたまひけつ(言ひ消つ)	人の言葉を打ち消す、否定する、言いかけて中止する、咎める、非難する
のどむ	ゆったりとさせる、落ち着ける、静める、のんびり構える、先を急がず速度を緩める
のどやか、のどか(長閑)	うららか、落ち着いている、ゆっくりしている、のんびりしている
ばいす(陪す)	裏打ちする
ばうぞく	放俗ないし凡俗、だらしないこと
はえなし(栄えなし)	栄えて引き立つことがない
はかなく	あつけなく
はかなし	頼りない、心細い、弱々しい、頼りにならない、もろい、あつけない、正式でない、重要でない、つまらない、はっきりしない、いい加減である、幼稚である、浅はか
はかばかし	(打消し多し)物事が思うようにはかどる、際立っている、はっきりしている、しっかりしている、確かだ
はかり	目当て
はぐくむ(育む)	羽で包み覆って保護する、大切に世話する、大切に育てる
はした(端)	どっちつかず、中ぶらりん
はしたなし(端なし)	どっちつかずだ、間が悪い、困ってしまう、無情だ、無愛想だ、気詰まりな
はしたなやかに	相手にきまりの悪い思いをさせるように、無愛想に
はた	これもまた、これはこれとして、そうはいうものの、やはり
はだし(絆)	足に絡み付けて歩かないようにする縄、手枷、足枷、支障、人の身の束縛物
はづ(恥づ)かしき	こちらが恥ずかしくなるくらい先方がすぐれている
はつか	わずか、あるかないか良く分からない
はて(果て)	死後49日経った日、一周忌、終わり、最後、なれの果て
はばかり(憚る)	邪魔ものがあって行き悩む、進めないでいる、恐れ慎む、遠慮する、自重する、はびこる
はふらかず(放らかず)	うっちゃる、うち捨てる、行方をくらす、放浪する
はふる(放る)	捨てられる、放浪する、死ぬ、零落する、落ちぶれる
はぶれ	はふる(放ち捨てる)の自動詞形、野たれ死にする
はやう(はやくの音便形)	もう、前から、とうに、昔、以前、うまく、まんまと、もともと、元来は、実は、驚いたことには、いやはや
はやりかなり	上っ調子な
はゆし(映し)	顔が向けにくい、きまりが悪い
はらから	(同胞)兄弟姉妹
はる(晴る、張る)	(額が)広いこと
ひが(僻)	接頭語、正しくないこと、間違い:ひが耳、ひが目、ひが覚え
ひがひがし(僻々し)	普通でない、ひねくれている、率直でない
ひかふ(控ふ)	引き止める、止める、内輪にする、見合わせる、やめる、おとなしくしている
ひがむ	曲がる、かたよる、風変わり
ひきしろふ(引きしろふ)	引っ張る、無理に引っ張る、ひったくる
ひきつろう(引き繕う)	体裁を整える、身だしなみをする、気取る、余所行きにする
ひそく(秘色)	青磁色
ひそむ	顔をしかめる、泣きべそをかく
ひた(直)	ひたむき、ひたすら、他を交えないこと、純一、一面、すぐ(直)
ひたおもて(直面)	顔を隠さないでいること、直接に顔を合わせて差し向かうこと、面と向うこと
ひたく(日たく)	日が(長く)高く上る、高くなる
ひたたく(混く)	乱れる、しまりがなくなる、あらわになる、(人の出入りが)うるさい、にぎやかな
ひたぶる	一途なさま、ただもう、ひたむきな、むやみに、全く、全然
ひちちか	活き活きとしている、ピチピチと活気がある、(別説:肘近より)小柄、親しみやすい
ひつ(浸つ)	濡れる。涙にひちて・・・。
ひとすう(人据う)	男が女を自分の邸に連れてきて、妻として待遇すること

ひとのくに(他の国)	地方の国々
ひとのみすくせ(人の御宿世)	特別な宿縁、前世からの因縁
ひとふし(一節)	歌曲の一区切り、一曲、一つの目立った特有の点、ひとかど、一事件、一件
ひとま(人間)	他人が見ていない間、人のいない間、人の見ていない所
ひとめく(人めく)	一人前のような様子をする、人らしくある
ひとやり(人遣り)	自分の心からするのではなく、他人に強いられてすること
ひとやりならず(人遣りならず)	他がさせることなく、自分の心からする、他人ではない自分自身のせい
ひとやりならず(人やりならず)	他から強制されてではなく、自分の意志で
ひとわき(人分き)	人によって差別をする、人によって分け隔てをする
ひとわろし(人悪し)	体裁が悪い、見苦しい、人目にも恥ずかしく、てれくさい
ひなのわかれ(鄙の別れ)	都から遠い田舎へ別れていくこと
ひひな(雛)	紙で小さく作ったおもちゃの人形
びんなく(便なく)	不都合な
ふかし(深し)	濃い、詳しい、親密な、時が経っている、ふけている、多い、激しい
ぶく(服)	喪服、喪に服すること、喪中、食べること、飲むこと、服用すること
ふくだむ	けばだつ、ボサボサになる
ふすぶ(燻ぶ)	くすべる、煙にあてる、燃やさず煙を立てる、嫉妬する
ふつつか	太く不細工なこと
ふと	たやすく、簡単に、ひょいと、すっと、すぐに、不意に、突然
ふりがたし(旧り難し、古り難し)	昔に変わらない
ふりはへ	わざわざする
ふるき(黒貂)	黒貂(くろてん)、ふるきは蒙古語
ふるめかし(古めかし)	古風だ(←いまめかし)、老人風だ
へがる(剥がる)	薄くなる、減る、落ち細る
へんつぎ(偏つぎ)	漢字の遊戯、旁に偏を付けて文字を完成するなど諸説あり
ほい(本意)なし	不本意だ、はがゆい
ぼう(坊)	東宮坊、転じて皇太子。
ほけほけし(惚け惚けし)	いかにもぼけている
ほこりか(誇りか)	誇らしそうに、得意そうに
ほど(なき所)	距離(狭い所)
ほどほどにつけて	身分身分につけて、(その他場合にに応じていろいろ他の意味も)
ほとり(辺)	物の縁辺・はし、川や海のきわ・ふち、遠くない所、縁故の者、つて
ほれほれし(惚れ惚れし)	ぼけている、ぼんやりしている
ほれほれし(惚れ惚れし)	ぼけている、ぼんやりしている、ぼう然としている
まうけ(設け、儲け)	用意、準備、仕度、ごちそうの用意、ごちそう、饗応、食べ物
まうけの君	皇太子。「まうけ」は準備。
まがふ(紛ふ)	入り乱れてはっきりしなくなる、入り混じる、分からなくなる、間違ふほど似ている
まがまがし(曲々し、凶々し)	縁起が悪い、不吉だ、陰気に、忌まわしい、憎らしい、好ましくない
まくなぎ	またたき、めくばせ ←元は小さい羽虫の名
まけわざ(負態)	勝負事に負けた方が勝った方を饗応すること
まことや	それはそうと
まさぐる(弄る)	いじる、もてあそぶ
まさなし(正無し)	良くない、不当だ、不都合だ、扱いに困る、始末が悪い、始末に負えない、手に負えない
まじらひつく	勤務(同僚との付き合い)になれてそこに落ち着いた
またの日	次の日、翌日:又の朝、又の年
まつはず(纏はず)	からみつく、まつわりつく、絶えずそばに付く、添わせる
まねぶ(学ぶ)	真似して言う

まばゆし(目映し、眩し)	まぶしい、まぶしいほど立派だ、きらびやかだ、派手過ぎてきまり悪い、恥ずかしい
まほ	完全である
まめ(忠実)	真面目、誠実、真実、勤勉、健康
まめまめし(忠実忠実し)	極めて忠実である、いかにも誠実/真面目である、日常生活に必要である、実用向きである
まもる	凝視する
まもる(守る、目守る)	目を放さずにじっと見つめる、(状況を)窺う、見張りする、保護する、命令・決まりに従う
まゆひらけたる(眉ひらけたる)	楽しげ、憂いが去ってほっとした表情の
まろぶ(転ぶ)	転がる、倒れる
みかうし(御格子)まいる	格子を下げる
みぎわ(汀)まさる	(汀=水際) 涙がとめどもなく流れ落ちる
みぐし(御頭)	貴人の頭髪、頭部、首
みけづりぐし(御梳櫛)	櫛で髪をとくこと
みさす(見さす)	さす=接尾語(動詞について)しかけて途中でやめる意をあらわす
みしのぶ(見忍ぶ)	我慢して世話(結婚)しつづける
みずきやう(御誦教)	経を読誦することから転じて、誦教に対するお布施
みたて(見たて)まつる	お世話申し上げる
みちよう(御帳)	室内を区切ったり、人目をさえぎったりするための垂れ布、帳
みつく(見付く)	見て親しむ、見馴れる、発見する
みつつがひとつ(三つが一つ)	三分の一
みづはぐむ(端齒ぐむ)	はなはだしく老人になる、ねびる以上
みてぐら(幣帛、幣)	神に奉げるものの総称、神前に供するもの、幣(ぬさ)、絹布など
みなし(見做し)	見る目のせい、気のせいでそう見えること、先入観
みなわ(水泡)	水の泡、あぶく
みのぶ(見延ぶ)	流し目をする、まぶたのたるみが延びつほど、流し目でじっと見る
みはかし(御佩刀)	貴人が身につける刀
みまうし(見ま憂し)	見るのがつらい、見るのが厭わしい、見るのが嫌
みまさり(見まさり)	実物を見て、見ないで想像していたよりも良いと思う、前よりまさって見える
みまし(見まし)	見たいものだ
みやうが(名香)	仏に奉る香
みやり(見遣り)	見渡すこと、遠く見渡せる所
みゆづる(見譲る)	世話を頼む
みゆるしてん(見ゆるしてん)	見て咎められない、見逃す
みをつむ(身をつむ)	自分を引き合いにする
むかいばら(嫡腹)	正妻の産んだ子、当腹(たうふく)=今の正妻が産んだ子 ←先腹(さきばら、せんぷく)
むくつけ	ぞっとするほど気味が悪い
むくむくしさ	非常に気味悪いさま
むすぼる(結ぼる)/むすぼほる	結ばれて解けにくくなる、心が塞いで晴れない、塞ぐ、固まる、凝る、関係をつける、縁をつなぐ
むすめがち(娘勝ち)	女の子の方が多いこと
むつかし	こわい、気味が悪い、うっとうしい、不快である、煩わしい
むつかしげなる	むさ苦しい(大路)
むつかる(憤る)	機嫌を悪くする、ふくれる、当り散らす、こぼす
むつまじ(睦まじ)	親しい、親密だ、慕わしい、なつかしい
むとく(無徳)	徳分がないさま、収入がないさま、名ばかりで役に立たないさま、存在意義がないさま、甲斐ないさま
むねあく(胸あく)	思いを晴らして気持ちをさっぱりさせる。
むねむねし	しっかりしている、おもだっている
むねむねしからぬ	頼もしそうでない
むもれいたし(埋もれ)/うもれいたし	晴れ晴れしない、気が腐るようだ、引っ込み思案だ、内気すぎる、控え目すぎる

むもれいたし(埋もれいたし)	晴れ晴れしない、気が腐るようだ、引っ込み思案だ、内気すぎる、＝うもれいたし
めうつし(目移し)	あるものを見たくて、他のものを比較して見ること
めぐらす(回らす)	まわす、囲ませる、企てる、回状で知らせる
めざまし	あきれるほどひどい、目にあまる、目を見はるほど素晴らしい
めざましきもの	目障りな無礼者。「めざまし」は目が覚めるほど意外な。善悪両方の意あり。
めずらしきこと	懐妊をさす常套表現
めづらし(珍し←愛づ)	可愛い、愛らしい、目新しい、清新である、新鮮である、めったにないことで素敵だ、並々ならぬ
めどう(馬道)	建物の中を貫く板敷きの廊下。
めも(目も)あや	きらきらして正視しがたいこと、まぶしいほど立派なこと
めやすし(目安し)	無難だ、感じが良い
もごよふ	這う、足が立たず、腹ばいになって這い回る、体をうねらせる、翻る、揺れる
もてなし	物事を執り行う、取り計らう、処理する、世話する、態度、物腰、身だしなみ
もてはやされる	一段と引き立てる、際立つ、退屈に扱う、もてはやす
もどかし	もどく＝非難する、じれったい
もどく	批判する、非難する
ものげなし	それと認めるほどのこともない、見栄えがせず貧弱である、みすぼらしい
ものし(物し)	じやまな存在だ、耳障り、目障り、いやだ
ものづつみ	物事を心の中に隠していること、控え目、内気、遠慮
ものにあたる(物に当る)	あわてて惑うさま、とまどいする
ものなたより	他の通り所からの帰途
ものめかす	一人前の大切なものと見えるように取り扱う、一人前のように扱う
ものめで(物愛で)	物事を深く愛し褒めること、もの好み
ものもおぼえず(物も覚えず)	茫然自失の、正体が無い、夢中である
ものものし	いかめしい、厳かだ、貫禄がある、太って大柄である
もよほし(催し)	催促、勧誘、原因、種、(神仏の)取り計らい、物事を誘う
やがて	そのまま、その時に、すぐに、程なく、少したって、確かに、ちゃんと
やすらふ	ためらう、躊躇する、足を止める、休む
やつる	見苦しくなる、醜いようになる、故意に(衣服や乗り物などを)粗末・質素にする
やほあひ(八百会ひ)	沢山のものが集まり会すること、同左が集まり会する所
やまがつ(山がつ)	きこり、山人など山の中に住む身分の卑しい人
やよや	(呼びかけの言葉)おいおい、さあさあ、もしもし
やりとぐち(遣戸口)	引戸を設けた出入口
やをら	静かに、そっと、こっそり
ゆう(夕)まどひ	夜早くから眠りたがること
ゆうばえ(夕映え)	日没前後に一時薄明るく辺りが浮き出て見えること(見える物、顔)
ゆえ	人格・教養・風情。趣味・風流の心得があること(一般的・本来的な資性)
ゆかし	興味を惹かれる、知りたい、見たい ←心が行きたいから
ゆくゆく	滞りなくするさま、すらすら、おいおい、次第に、ずんずん
ゆくりか	不用意に、思いがけず、不意に(ゆくりなしと同じ)
ゆくりなく	思いがけなく、不意である
ゆす(揺す)	左手で絃を押さえ揺すって、音を響かせること
ゆする(汙る)	頭髮を洗うのに用いる湯、髪を洗ったり、梳ったりすること
ゆする(揺する)	どよめく、騒ぐ、揺り動かす
ゆゆし	神聖で恐れ多い、はばかられる、不吉である、縁起が悪い
ようい(用意)	心を用いること、心づかい、注意、心構え、気をつけること、用心、前以っての準備、したく
よこさま(横さま)/よこざま	横、横側、横向き、一般法則に背く、当然でない、無実の、いわれのない(罪)、悲運の
よごもる(世籠る)	世に出ないでいる、生い先が長い、年が若い、年が若くて将来が長い未婚女性の状態

よさり(夜さり)	今夜、今晚、夜
よし	人格・教養・風情。趣味・風流の心得があること(具体的に形や色に表す手腕)
よしばむ	よし(趣味、教養)ありげに見せること
よしよしし(由よし)	由緒ありげである、風情がある
よすが(縁、因、便)	ゆかり、頼り、より所、手段、手がかり、頼りとする相手、身を託す寄るべ、夫・妻・子など
よすがつく	便宜を取り計らう
よそ	ほかの場所、自分と関係がないこ
よそながらも	他の所にいるままで、遠くにながら、直接ではないけれど、それとなく
よそにても	逢うことまでしないにしても、他人だとしたところで
よそふ(寄そふ)	ことよせる、託する、かこつける、なぞらえる、たとえる、比べる
よそほし(装ほし)	威儀を整えている、いかめしい、もののしい、美々しく立派だ
よづく(世付く)	世間一般の様子である、世間並みである、世間のことに通じる、世馴れる、俗化す
よづける(世づける)筋	色恋沙汰
よとともに(世とともに)	常々
よととも御もの思ひ(世と…)	常に念頭から去らない生涯の痛恨事
よひい(宵居)	夜更かしすること
よぶかし(夜深し)	夜更けた、深夜だ、夜中だ、夜が明けきらず暗い
よもぎふ(蓬生)	蓬などの雑草(が生い茂った)
よろぼう	よろよろする
よをはなるさま(世を離るるさま)	出家姿、尼姿
らうがはし(乱がはし)	むさくるしい、乱雑である、無秩序だ、混雑している、喧しい、騒々しい、乱暴だ、無礼だ
らうず(領ず)	自分のものとする、所有する
らうたし	かわいい、いとしい、愛らしい、可憐だ
らうらうじ(労々じ)	上手だ、巧者だ、利発だ、しゃれている、気がきいて洗練された魅力を持つ
わかむどほり	天皇の子孫
わかわかし(若々し)	子供っぽい、大人気ない、年甲斐も無い
わくらばに(邂逅に)	偶然に、たまさかに、まれに、たまに
わざと(態と)	わざわざ、ことさらに、意図的に、格別に、特別に
わざとがまし(態とがまし)	特に心を用いた様子である、大袈裟である
わずらふ(…わずらふ)	…しかねる
わづか(僅か)	程度・規模が小さい、ささやか、数が少ない、やっとな、辛うじて
わづらはし(煩はし)	嫌だ、厭わしい、複雑である、面倒だ、厄介だ、気遣いされる、気詰まりである
わびし(侘し)	慰めようもなく心細い、がっかりしている、寂しくてたまらない、つまらない
わぶ(侘ぶ)	悲観して嘆く、心細く思う、困窮する、困る、こぼす
わりなくして	無理をして、無理を押しして
わりなし	道理を外れている、弱ったことだ、困った、論理的でない、理由が無い
われかの(我かの)	我か人か、自他の見分けもできない
わろし	よろしくない、具合が悪い、不都合な
ゐたち(居立ち、居起ち)	座ったり立ったりする、気にかかってじっとしてられない
ゐたつ	立ったり座ったりする、自分から熱心に世話する
ゐんじ(院司)	院の役所に奉仕し、庶務を司る職員の総称、院の司
をかし	おもしろい、興味がある、趣がある、風流だ、すぐれている、上品だ、美しい、変だ
をかしげなる人	美しい人、魅力的な人、可愛らしい人、趣がある人
をこがましい	愚かしい、馬鹿な
をさをさ…ない	全く、めったに…ない
をさをさし(長々し)	一人前にしっかりしている、しっかりと立ちまっさっている
をち(彼方、遠)	それより向こう、遠く隔たった所、遠方、それより以前、それより後